

クリ「ぼろたん」の受粉樹に適する高品質・多収性の新品種「美玖里（みくり）」

クリ「美玖里」は「ぼろたん」より開花期がやや遅いものの、受粉、受精および果実品質と剥皮性にも問題がなく、しかも熟期が重ならず、果実混入もないため、「ぼろたん」の受粉用品種に適する。なお、本品種は高品質で、多収性の晩生品種である。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室（担当者：岩谷章生）

研究のねらい

県内では、渋皮剥皮の優れる新品種「ぼろたん」の植栽が進んでいるが、クリは自家不和合性であるため、受粉樹の混植が必要である。ただし、「ぼろたん」と収穫期が重なったり、外觀の類似する品種は果実混入のおそれがあり、受粉樹として利用できない。現在、数品種が受粉用品種の候補となっているが、いずれも、収量や品質の面で問題があり収益性も高くない。そこで、「ぼろたん」の受粉樹に適し、しかも収益性の高い品種を選定する。

研究の成果

1. クリ「美玖里」は、1果重が26g程度で「筑波」よりやや小さいものの、収量は「筑波」より多く、豊産性である（表1）。
2. 比重は「筑波」より高く（表1）、肉質は粉質で、甘み、香気ともに強く、果肉も黄色味が濃く、品質は良好である。
3. 「美玖里」は、「筑波」より10日程度熟期が遅い晩生品種であり、本県では9月下旬から10月上旬が収穫盛期となる（表2）。また、収穫始期は「ぼろたん」の収穫終期よりかなり遅いため、収穫時に果実が混入するおそれは無い。
4. 「美玖里」の雄花開花盛期は、「ぼろたん」の雌花開花盛期より7日程度遅いが（表3）、「ぼろたん」は雌花開花盛期より9日程度遅れても十分受粉でき、受精にも問題はなく、1穂に果実は多く入る（表4）。さらに、「美玖里」の花粉を受粉した「ぼろたん」果実は、1果重、品質、剥皮性とも問題は無い（表5、図1）。

普及上の留意点

1. 本品種の枝梢は徒長しやすく、長大な結果母枝には着果しにくい。したがって、強せん定を慎み、他品種より2ないし3年枝の利用比率を高めることで、着果安定を図る。
2. 本県クリの共販は9月末までの地域が多いため、本品種についての販売対策が必要である。
3. 晩生品種であるため、クリシギゾウムシの常発地域には導入できない。

表1 クリ3品種の収量および果実品質

品種名	1樹当たり収量 ^z		比重 ^y
	(kg)	1果重 ^y (g)	
美玖里	23.2	25.7	1.079
ぼろたん	10.3	29.5	1.083
筑波	14.8	28.0	1.065

z)平成14～16および平成20年(樹齢2年生～4年生と8年生時)の累積収量(5～7年生時は台風による樹体損傷のため除外)

y)平成14～16および平成20年の平均値

表2 「美玖里」とクリ3品種の収穫期

品種名	収穫期(月・日) ^z		
	始	盛	終
美玖里	9/20	9/30	10/7
ぼろたん	8/25	9/3	9/7
筑波	9/10	9/20	9/29
利平栗	9/10	9/21	10/2

z)美玖里、ぼろたん、筑波については平成14～16および平成20年の3～5年生及び9年生の平均値

利平栗については平成9～19年の3～13年生の平均値

表3 「美玖里」とクリ2品種の開花期

品種名	雌花開花期 ^z		雄花開花期 ^z	
	始	盛	始	盛
美玖里	5/26	5/30	5/30	6/2
ぼろたん	5/19	5/26	5/25	5/30
利平栗	5/22	5/26	5/22	5/26

z)ぼろたん及び美玖里については平成14～16および平成20年の3～5年生及び9年生の平均値

利平栗については平成9～19年の3～13年生の平均値

表4 「ぼろたん」の開花盛期から「美玖里」受粉までの日数と1穂当たり含果数との関係

開花盛期から受粉までの日数 ^z (日)	含果数平均(個)
4	2.7
7	3.0
9	3.0

z)「ぼろたん」の雌花開花盛期後、「美玖里」花粉受粉までの日数。

表5 花粉品種の違いが「ぼろたん」果実に及ぼす影響

花粉品種	調査項目	1果重 (g)	比重
美玖里		25.3 ± 3.8	1.085 ± 0.016
銀寄		24.9 ± 4.5	1.088 ± 0.014
利平栗		26.1 ± 5.1	1.096 ± 0.015

注)±は標準偏差

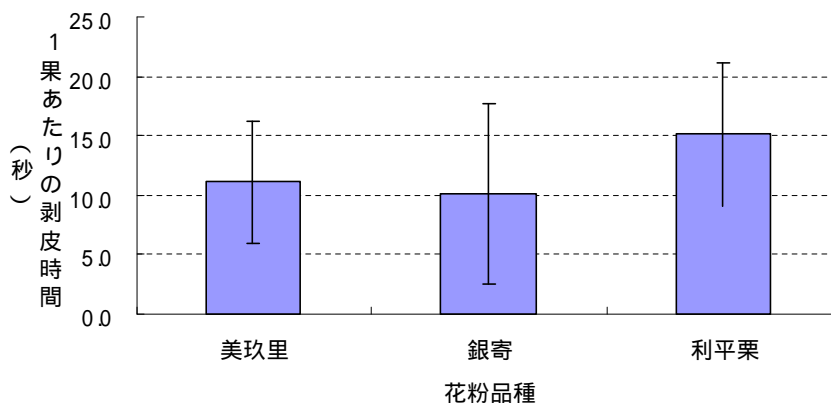


図1 花粉品種の違いが「ぼろたん」果実の剥皮性に及ぼす影響

注)剥皮時間の調査はHOP法(正田ら,2002)による